平成 23 年度老人保健健康増進等事業
若年性認知症の方に対する効果的な支援に関する調査研究事業

１．研究の目的

この研究では，若年性認知症の方が生活上で困る行動障害のパターンとその際の支援のポイントを,症状や障害と照らし合わせながら明らかにし，若年性認知症の方への効果的な支援のあり方を示し,普及することを目的とします。

２．研究の方法

１）支援方法の検討

研究協力者による委員会を設置し，若年性認知症者への支援におけるあり方を次の①? ③の視点より検討します.（図1）

① 心身機能（impairment）レベルに由来する症状や障害：記憶障害、注意障害、高次脳機能障害など影響や情報入力そのものが難しいのかなどを整理する視点。
② 個人因子（narrative）レベルに由来する課題：その個人の動作手順や癖、考え方、洋服を着る手順、仕事の内容や行程、趣味などの視点。
③ 環境因子（environment）レベルによる影響：鏡の前では鏡現象を誘発し混乱を助長する。ざわついた環境では集中できない、などの視点。

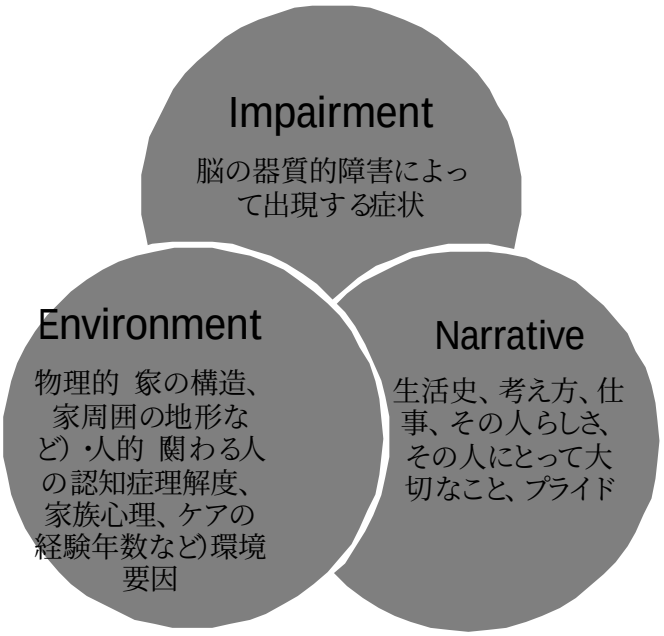

図１　症候理解の図式

3つの要素がその時の状況と関連しながら症候は出現する

２）協力施設におけるモデル的実践の抽出

①郵送により協力施設において若年性認知症者事例調査書類を郵送します.

②記入してもらった事例を集積し，成功例から状態像と支援方法の関連を分析し検討された支援方法を基にモデル的な実践を整理します.

３）評価の実施

プログラムの効果を比較するために，評価には、アセスメントシートとLASMI（ジョイント改訂版）を使用します.

４）テキスト（報告書）作成および研修会開催

２の結果をもとに，支援のポイントが明確に示せるテキストを作成する．そのテキスト（報告書）を使って２か所程度で支援者向けの研修会を開催します.

５）研究（事例）報告書の作成

研究協力者より集められた事例を集積し,研究（事例）報告書を作成いたします.